



## 朝ボランティアがんばっています



最近、多くの先生方から「朝や帰りのあいさつ、授業前後のあいさつの声が大きくなった」という声を聞くようになりました。もちろん、各専門委員会の取組や先生方のご指導もありますが、それに応（こた）えて頑張ってくれている三中生のよさが、形になって現れていると思います。

左の2枚の写真は、三豊中学校の正門付近の朝の様子を撮影したものです。毎朝、生徒会役員や呼びかけに応じてくれたボランティアの人、ソフトテニス男子部員が中心となって、正門、ピロティ、生徒玄関付近の清掃をしてくれています。また、あいさつ運動も昨年度から継続してくれています。水曜日は、環境委員会の呼びかけで、アルミ缶回収ボランティアに多くの方が協力してくれています。本当にありがとうございます。

アルミ缶回収なら、同じように300個集まったとしても、10人の人が30個ずつ持ってきてくれたのと、300人の人が1個ずつ持ってきてくれたのでは、後者の方が価値があると思います。

誰かから指示されるのではなく、学級や部活動、あるいは共通の目的をもった人たち数人で、新しくできるボランティアを見つけて行動に移してくれる人はいないでしょうか。みなさんのアイデアと行動力を期待しています。

## 「努力の壺」の話

<光隆寺大西正志住職>

人は何かを始めようとするとき、神様から「努力の壺」をひとつもらうのだという。この壺には、努力すると、それに見合っただけの水が入る。小さな努力なら少しの水。大きな努力なら多くの水が入る。

そして、努力を重ねて、この壺がいっぱいになり、ついに水があふれ出すとき、願いがかなうのである。この話には、二つの大切なことがある。

一つは、壺の大きさは人によって、また目標によって違いがあるということだ。小さな壺の人はわずかの努力で水があふれ出すだろうし、大きな壺の人は、長い時間努力を続けてもなかなかあふれ出さない。

目標が違えば、壺の大きさも違うのは簡単に分かるだろう。でも、目標が同じでも、人によって壺の大きさは違うのである。これはその人の才能とか能力を言っているのではない。人間は一人一人違うのだから、当然今までやってきたことも違う。だから壺の大きさも違うのである。

1学期末テストが近づいてきた。ほとんどの人は学習をがんばっているはずだ。でも、友だちとの会話で、「私は昨日、全然やっていない」「僕も、まだ〇〇はすんでいない」などと言っていないだろうか。そして、それによって、「友だちもやっていないんだから、まだ大丈夫だ」などと安心していないだろうか。でもこれは本当に見せかけなのだ。人によって壺の大きさは違うのだから、同じことをしているからといって結果が同じになることは決してない。不公平だと思うかも知れない。でも、これが人生なのである。自分の努力の結果は自分で背負うしかない。厳しいけれどこれが現実であり、人生なのだ。

もう一つ大事なこと。それは、どんなに大きな壺でも、水を入れ続ける（努力を続ける）かぎり必ずいっぱいになるということである。最初は壺がいっぱいになる日は、気が遠くなるほど先に感じるかも知れない。でも、水を入れ続けるうちに必ず手応えを感じるはずだ。努力を続ける限り、壺があふれ出す日は思ったより早くやってくる。小さな壺をもらった人が努力を怠って、いつまでもいっぱいにならず、大きな壺をもらった人が地道に努力を続けて、先にあふれ出すことも多い。これもまた人生である。